

2018年度 第3回審判委員会
第4回ブロック連携・ブロックIR責任者合同会議
全国審判長会議
(会議資料)

第3回審判委員会、第4回ブロック連携・ブロックIR責任者合同会議
2019年2月23日（土）13:30～17:00 TKP田町カンファレンスセンターB1F

全国審判長会議
2019年2月23日（日）10:00～16:00 芝学園中学校・高等学校

第3回審判委員会・第4回ブロック連携・ブロックIR責任者合同会議

合同会議の趣旨説明

- ・審判委員会とブロック連携の会議内容が共通する点が多い。
- ・前回同様審判委員会での決議事項については委員のみの採決となるが、意見および質問は可とする。
- ・ブロックIR責任者の業務・役割を明確にするためにもJBAの方向性については具体的に内容を知っておいて欲しい。

本日の流れ

13:30～15:00 会議

15:00～16:30 2019年度A級更新講習内容の確認

1. 出席者確認・会の成立について

（JBA審判担当および審判委員会に関する規程第15条第1項：過半数）

2. JBA審判委員会委員長挨拶および第2回審判委員会議事録確認（**前回資料**）

3. 議長選出

（JBA審判担当および審判委員会に関する規程第14条第2項）

4. 議事録署名人2名指名

（JBA審判担当および審判委員会に関する規程第19条：議長及び他2名）

全国審判長会議の趣旨説明

- ・次年度各種事業および都道府県における新ルール等伝達をスムーズに実施するため、審判長会議を2月に設定しました。
- ・現在JBA審判は改革期です。従って様々な変更点を日本全国で共有していくため、説明そして資料が多く皆さんにご迷惑をおかけしますが、ご理解をよろしくお願いします。
- ・なお、全国審判長会議は決議機関ではありません。従って、2月23日に開催された第3回審判委員会での決議事項を報告としてお伝えすることとなりますが、ご意見ご質問は遠慮なくお願いします。
- ・また、6～8月に各ブロックで開催するブロック連携会議で直接皆さんの様々なご意見を伺います。是非よろしくお願いします。

本日の流れ

- 10:00～14:00 各種事業等説明（12:00～13:00昼食）
- 14:00～16:00 新ルール、ガイドライン、マニュアルについて

5. 決議事項（1）2018年度審判事業報告

①JBA事業報告 資料③P1

1) BLGチャレンジについて

男子トップリーグ担当を希望する女性審判に門戸を開く

2017年度（BLG2年目）FIBAライセンスの女性審判をトップリーグ担当に

2018年度（BLG3年目）S級女性審判に対しBLGチャレンジを実施（3/4名合格）

合格者3名中2名はBLGカテゴリー3からカテゴリー2へ昇格

2) 審査会・認定講習会結果

S級昇格者19名（男性16名女性3名）

※S級審査会については、男女とも同じ審査員で選考し基準の統一を図った。

A級昇格者48名（男性36名女性12名） 資料③P2

S・A級人数推移 資料③P3

都道府県・ブロック別インストラクター数 資料③P4

5. 決議事項（1）2018年度審判事業報告

3) 3×3、女性分科会全国組織化 資料③P5

4) マニュアル全面改訂（3PO/2PO/3×3）

2013年度版を全面改訂した。昨年度のトップリーグ研修でもお伝えしたが、FIBA/ユーロリーグ/NBAの情報を精査し、JBAとしての方向性を明確にしている。また、3×3部会が中心となり全国への普及のため、初めて3×3も掲載した。今後、マニュアルは修正追加を含め2年おきに改訂版を発刊する予定。販売については、**HPへアップしないので購入をお願いしたい。**

5) トップリーグ研修一本化

JBAが求めるS級としての判定・メカ等を統一していくためにBLG/WJBL別開催で実施していた研修会を合同で実施する事とした。

6) 2019年度版ルールブック改正WG

3月中旬を目途にHPにアップできるように準備をしている。（発刊は2年毎予定）

5. 決議事項（1）2018年度審判事業報告

7) 3×3審判TC（トーナメントチーフ）研修実施

3×3の普及育成を、さらに強化へと進めている。

2017年度 3×3登録制度開始

2018年度 3×3トップリーグ担当審判制度へ（30名→44名）



3×3トップリーグ担当審判一次選考会（12/7～9 U18日本選手権）



3×3トップリーグ担当審判二次選考会（3/16 トーナメント.EXE）

※トップリーグ担当審判を50名程度に

TCは、3×3におけるインストラクターそして大会当日の審判責任者としての役割業務。

現在、TC13名で3月末を目途にプレーコーリング・ガイドラインを作成中。

8) 審判長会議 2月開催固定化

ルール変更が4月1日からスムーズに移行できるように。（都道府県での伝達講習会時期）

次年度の事業計画を早く全国に伝える事で、審判員の仕事との調整をしやすく。

9) 新規A級強化合宿

3POの伝達を目的に強化合宿を実施していたが、**全国へ普及してきているので次年度から廃止へ。**

5. 決議事項（1）2018年度審判事業報告

②JBA管轄ブロック事業報告

1) 事業一覧 **資料③P6**

2) 会計報告 **資料③P7~8**

実施初年度でしたがスムーズに進めることができました。ブロック会計責任者の方々、ご協力ありがとうございました。次年度に向け予算作成等改めて連絡しますのでよろしくお願いします。

3) 名誉インストラクター制度

ブロックのご意見を伺い、採用しないことで決定。（最終決定9/30委員会）

4) BCDE級の取り扱いについて

基本的には県内4ライセンス制で進める。

B級・・・座学・ルールテスト、フィットネス、実技

C級・・・**座学・ルールテスト（2021年度からeラーニング）、実技（合否有り）**

D級・・・**座学・ルールテスト（2021年度からeラーニング）、実技（合否なし）**

E級・・・座学・ルールテスト

※2018年度受講者から永年制廃止。2021年度から全員更新制に。

③都道府県事案

1) フィットネス事案 資料③P9~15

石川県の審判委員会の速やかな対応とともに、委員長をはじめ多くの方々がご家族の方々に寄り添っていただきました。本当にありがとうございます。

2) 暴力事案 資料③P16

九州ブロックそして長崎県審判委員会の速やかな対応ありがとうございました。被害にあわれた審判員も現在復帰し元気に審判活動を続けています。

3) 試合中における重大なトラブル事案

広島県事案 資料③P17~19

青森県事案

大分県事案

5. 決議事項（2）2019/21シーズンFIBA推薦について

①FIBA選考の経緯

2018年9月30日第2回審判委員会決議事項

**「2019FIBAライセンス推薦に関するスケジュールおよび最終選考会議提案まで
をテクニカル部会に一任」**

【2019-21ピリオド選考の流れ】

10月	選考会議・対象者選定、対象者へ意思・環境確認
11月～2月	実技評価、語学力チェック、フィットネステスト
2月23日	第3回審判委員会（最終選考会議）
3月6日	JBA理事会（理事会承認）
3月中	FIBAよりルールテスト配信・受験、健康診断書等提出

②選考結果について **別添資料参照（当日配布）**

※推薦者氏名はJBA理事会承認まで非公表

5. 決議事項（3）2019年度審判事業計画

①JBA事業計画 資料③P20

1) 2019年度BLG(担当)チャレンジ（京王電鉄杯使用）

2018年度は、希望者が4名。（FIBA女性審判4名以外）

2019年度は、希望者が10名。

選考において、FIBAはBLGとの兼務担当とし、FIBA以外は今年度合格者で2018-19シーズンBLG評価が65点以上の場合は免除とする。

2) S級一次審査

新規A級 48名（男性36名女性12名）

ブロック推薦（ブロック事業計画で推薦枠を決定）

3) 3×3トップリーグ研修（50名程度予定）

5対5と同様に3×3においても2019年度から実施。プレミア.EXE、JapanTourの試合数増加に対応するとともに、判定基準・メカ・ゲームコントロールの共有が目的。
3月末を目途にプレーコーリング・ガイドラインを作成予定。

→TC、トップリーグ担当審判の強化とともに、全国への普及活動に繋げていく。

5. 決議事項（3）2019年度審判事業計画

4) WJBLサマーキャンプ

2019年度も長崎県大村市で実施。2020年度はオリンピックの関係で中止の予定。

女性審判強化合宿に特化し、担当審判研修および女性S級一次合格者強化合宿は廃止とする。

担当審判研修 この3日間審判をした事での特別なメリットが果たして有るか？

女性S級一次合格者強化合宿 2019年度からWJBLでA級の担当はなくなる。

→トップリング研修に参加し強化合宿とする。

5) トップリング研修

S級としての審判技術統一は今年度から実施。

2019年度はT級IR研修も兼ねて実施。

現段階ではJBA審判としての最高位の研修会として位置づけ、近年の審判技術進化変更を、トップリングに関わる全員で情報共有する事を目的とする。

ただし、本来はT級IR研修は別途実施すべきであるが、今年度も時期的な問題があり8月に開催したトップリング研修のほうが内容が充実していた反省がある。

今後、マンパワーそしてお金の面でも充実してきたら別途実施としていきたい。

また、S級一次審査男女合格者強化合宿として、次世代審判強化としたい。

5. 決議事項（3）2019年度審判事業計画

6) U28YOC（ヤングオフィシャルズキャンプ）

8月開催、BLG U15ALL STAR GAMEで実施したい。

①試合レベルの問題として、こちらのレベルの方が高い。

ただし、試合数が10試合となるため各ブロック3名推薦で1試合担当となる。

②同じ平日開催であるが、お盆の方が休みを取りやすい。

※1月開催のBLGU15チャンピオンシップは愛知県への審判依頼となる…。大丈夫？

7) S級三次審査会の実施

二次審査会不合格者を対象に社会人チャンピオンシップを使って三次審査会とする。

①二次審査後に成長した審判員を年度内で昇格する事ができる。

②ただし、希望者による自費参加とする。

③審査人数については、希望者数、社会人チャンピオンシップの試合数確保状況等を考慮し選考をおこなう。

④次年度ブロック推薦については、ブロックで次点等を選考しておけば、審査後に開催される審判委員会、ブロック連携会議、全国審判長会議で決定することができる。

8) 新規A級強化合宿の廃止

3POが全国的に浸透してきている。またインストラクター制度実施により、A級の指導育成についてはブロックを中心に進めていく方向で考えている。

5. 決議事項（3）2019年度審判事業計画

②JBA管轄ブロック事業

1) ブロック事業計画 **資料③P21**

2大会4人までの派遣で派遣方式が昨年度と変わってきた。4人一括派遣→分割。

2) 2019年度S級審査ブロック推薦について

各ブロックの推薦枠について協議・決定

①男性枠について（新規36名）

②女性枠について（新規12名）

2月末日までにJBAへ報告する事とする。

→次年度以降、ブロックにおける推薦決定についてはIR責任者を中心に実施する。

※インストラクター制度完全実施による責任・役割明確化で説明

5. 決議事項（3）2019年度審判事業計画

③全国大会の在り方 資料③P22

- ・全国大会担当者会議（2018/11/20）で全国大会における情報共有を図った。
- ・開催県枠、ブロック枠、都道府県派遣審判、本部審判等、明確にしていく
 - 開催県での審判育成が計画的に実施できるように
 - ブロックとしてA級審判の育成強化の目安ができるように
 - 平等性の担保。今まで関東東京がウィンターカップ、インカレ等で開催枠が少なかった
 - ※こういったブロック枠の整合性を図るためにも9ブロック制に……
 - 網掛け部分をブロック連携までには記入し都道府県にお伝えする予定です。

④全国大会審判謝金・インストラクター謝金統一 資料③P23～24

審判謝金について、各カテゴリーにおける**全国大会審判謝金額を上限**として、ブロック・都道府県で実施する大会においての**審判謝金額は大会予算に応じて主催者が決定する。**

5. 決議事項（3）2019年度審判事業計画

⑤インストラクター制度完全実施による責任・役割明確化

JBA S級、トップリーグ担当審判の審査評価指導に対する責任

A級およびB～E級に対して審査評価指導できる情報提供の責任

- ・BLGチャレンジ（女性のチャンスの場を提供）
- ・S級審査会の実施
- ・トップリーグカテゴリー制度（ランキング作成）
- ・トップリーグ担当審判適正人数の設定
- ・**各種教材作成提供**（A級更新講習、eラーニング：2021年度からはCD級も）
- ・**評価表基準の統一（A級の全国大会基準、B級の全国大会基準等）**

ブロック A級の審査評価指導の責任

- ・2019年度から全国大会でブロックA級がより多く担当できるようになる
- ・ブロックインストラクター責任者を中心にブロックインストラクター部会にて
ブロックA級ランキング表を作成しJBA（インストラクター部会長）へ提出。
- ・全国大会へ派遣できるレベルの審判かどうかの評価をブロックの責任で明確に。
- ・**JBA講師派遣数について（2大会4人派遣の変更、重点ブロック設定）**

都道府県 B～E級の審査評価指導の責任

- ・都道府県インストラクター責任者を中心に
- ・**全国大会開催によるJBA派遣講師依頼以外は、ブロック内での講師派遣を原則とする。**

6. 報告事項（1）2019年度導入事案

①インテグリティ委員会から



B.LEAGUE



B.LEAGUE B3

J B A インテグリティ委員会

(全国専務理事連絡会資料)

インテグリティとは

誠実さ、真摯さ、高潔さ

インテグリティ委員会設立

スポーツ界における不祥事

- ・指導者の問題（体罰行為、各種ハラスメント、etc） **2012年12月 桜ノ宮高校バスケット部事件**
- ・プレーヤーの問題（暴力行為、賭博行為、各種ハラスメント、etc）
- ・組織、役員の問題（協会組織のガバナンス問題、各種ハラスメント、etc）

対 応

- 2013（H25）年 4月 **スポーツ界における暴力行為根絶宣言**（公財）日本体育協会（現日本スポーツ協会） 他
- 2015（H27）年 3月 **グッドコーチに向けた「7つの提言」** 文部科学省によるコーチング推進コンソーシアム
- 2018（H30）年11月 **「子どもの権利とスポーツの原則」**（公財）日本ユニセフ協会
- 2014（H26）年12月 「スポーツ・インテグリティ・ユニット」の設置** JSC（日本スポーツ振興センター）
- 2017（H29）年12月 インテグリティ教育の推進** JOC（日本オリンピック委員会）
インテグリティ＝人間力としてオリンピック指定強化選手を対象にカリキュラム作成

JBAとして

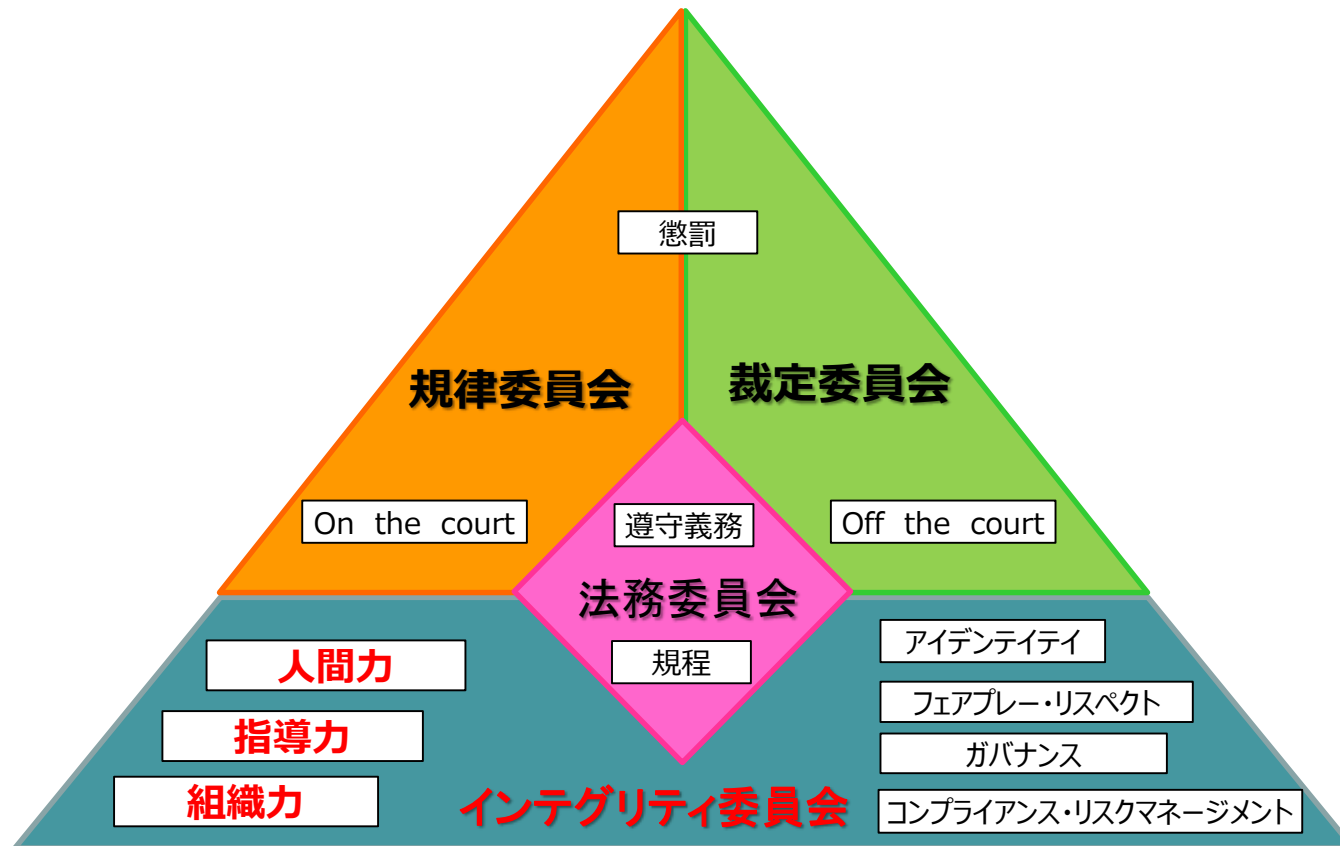
目 的

JBAが掲げる【バスケットで日本を元気に】の理念実現に向け、【インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）】に基づき人間力・指導力・組織力を高め、バスケットボールの価値を高めるための指針決定および啓発活動を目的とする。

方 針

オールバスケット、連携・分担、専門性、年代別・成熟度別

インテグリティ委員会の位置づけ



規律委員会・・・コートで起きた案件に対して対応する
裁定委員会・・・コート外で起きた案件に対して対応する

インテグリティ委員会・・・規律・裁定案件を未然に防ぐための指針決定および啓発活動をおこなう

インテグリティ委員会業務内容および分担

業務内容

業務分担

(1) 人間力を高める

①ひとりの人間としての資質を高める

- ・アイデンティティ教育（常に自分の意思で判断し、行動する自律した人間の育成）
Ex 自己実現（PDCA）、オープンマインド、あるべき姿、なりたい姿etc

②人とかかわりの中で社会人としての資質を高める

- ・フェアプレー・リスペクトの精神 ・コンプライアンス教育（法令順守）
・リスクマネジメント教育（危機管理） ・セカンドキャリア教育 etc

③自発的に他者（社会）のために尽くす資質を高める

- ・ボランティアの精神

(2) 指導力を高める

①プレーヤーの個の力を高める指導

- ・アスリートセンタードの精神 ・暴言暴力含めた体罰根絶
Ex アンガーコントロール

②チームプレーヤーとしての力を高める指導

- ・勝利至上主義からの脱却

③バスケットボールの価値を高める

- ・バスケットに関わる全ての人（プレーヤー・審判・観客等）に対するリスペクト
Ex チームに関係する人（保護者等、観客）への啓発 etc

(3) 組織力を高める

①組織としてのあり方を高める

- ・ガバナンス、コンプライアンス（JBA、PBA、TLG等各組織において）
Ex 法人化、目標の明確化、情報公開、責任の所在

②組織としての適応力を高める

- ・リスクマネジメント
Ex トラブルに対する速やかな対応、不祥事を未然に防ぐ啓発、再発防止策

③バスケットボールの価値を高める

- ・バスケットボールを通じた社会貢献

JBA育成
BLGユース

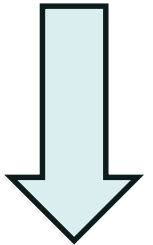
代表
BLG
B3
WJBL

JBA
指導者

BLG
B3
WJBL

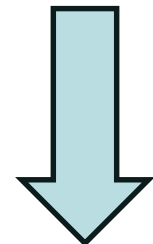
JBA、BCP、
PBA、BLG、
B3、WJBL、
指導者、審判

年代・成熟度



高い

指導力



高い

組織力



高い

インテグリティ委員会の方向性

STEP1 喫緊の課題対応

各団体・セクションで検討し委員会にて集約

JBA最優先課題「暴力暴言根絶」

2012年12月 桜宮高校バスケット部事件

JBA対応

2013年4月 登録指導者に対してアンケートの実施

2013年6月 注意喚起、厳重注意処分等決定

ところが

体罰事案件数

高体連（体罰認定件数：2014年以降）

2014年（5/12①） 2015年（6/36②） 2016年（6/36②）

2017年（4/41④） 2018年10月末現在（6/24①）

27/149（18%）全競技で一番多い

日本スポーツ協会（相談件数：2014年度以降）

60/315（19%）全競技で一番多い

STEP2 中期的対応

各団体・セクションで

業務内容・業務分担に応じた

課題を検討し

委員会にて集約

STEP3 長期的目標

インテグリティの精神を身に付けた人材の育成

人間力（プレイヤー）→指導力（プレイヤーの育成・強化）→組織力（運営）

JBAとしての喫緊課題「暴力暴言根絶」に向けての対応

①メッセージの発信

**クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム
～暴力暴言根絶～**

- 主題（JBA、トップリーグ・団体共通） 「クリーンバスケット、クリーンザゲーム」
クリーンバスケット・・・バスケットファミリー全員の協力によりバスケットの価値を高める
→**オフコートでのあり方**
クリーンザゲーム・・・試合に関わる選手、コーチ、審判全ての協力で試合の価値を
高める→**オンコートでのあり方**
- 副題（各団体で設定） JBAは「暴力暴言根絶」

会場にバナーの貼付、プログラムへの掲載

第1回インテグリティ委員会開催（2019年1月28日）

②試合中における暴力的行為および暴言に対する対応

**選手に対する暴力的行為および暴言は
テクニカルファウル（C）の対象とする**

競技規則およびガイドラインにおいてもテクニカルファウルとすることに問題はない

競技規則に則りテクニカルファウル2個で失格退場

失格退場に対しては、規律案件とはせず、当該試合のみの対応とする。

ミニルール（U12）にはテクニカルによる失格退場が現段階でないため変更予定

**3月開催、Jr All Starおよび全国ミニで先行実施
4月から、全国で実施**

第1回インテグリティ委員会開催（2019年1月28日）

③今後の進め方

暴力的行為および暴言の事例集（ガイドライン）作成

→JBAとしての取り組みであるため、JBAユース育成・指導者養成部会が作成

周知方法（暴力的行為および暴言をテクニカルファウルの対象とする）

組織として 2月16日 全国専務理事連絡会議（全国への協力依頼）

※JBAそしてPBAの協力で暴力暴言根絶に取り組んでいきたい。

審判員へ 2月24日 全国審判長会議（審判員への発信および協力依頼）

指導者へ

1. TeamJBAを通して、チーム登録・コーチ登録に対し通知。
2. JBAアンダーカテゴリー部会から都道府県アンダーカテゴリー部会へ通知。

各種問題発生？

JBAとして「暴力暴言根絶」に向けた取り組みは最優先課題のひとつであるため、実施後様々な修正が予想されるが、JBAの姿勢を示すため実施したい。
ただし、審判員がテクニカルファウルと判断し、さらに失格退場とすることは非常に大変な事です。組織としてのバックアップをよろしくお願いします。

②テクニカルファウルについて

テクニカルファウルの位置づけをガイドラインにて明確化

1. ファウルとは

（1）基本的考え方

- ①ファウルには、**触れ合いに対するファウル（NF/UF）と振る舞いに対するファウル（TF）**、そして**特に悪質でスポーツマンシップに反する行為（DQ：ファイティング含む）**がある。
- ②NF/UFは5個で失格、そしてUF/TFはUF 2 個、TF2個、UF/TF各1個によって失格退場となるが、**審判は「触れ合いに対するファウル」と同様に「振る舞いに対するファウル」にも毅然と判定する必要がある。**
- ③審判は、**JBAが推進する「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」**を実践するため、コート上でのイリーガルな「触れ合い」および「振る舞い」に対するファウルを、競技規則およびプレーコーリング・ガイドラインに則り適切に判定することが求められている。

（2）触れ合いに対するファウル

審判員は、触れ合いに対するファウルの成立基準として、以下の3原則がある。 以下略

（3）振る舞いに対するファウル

振る舞い（コンタクトのあるタウニングを含む）に対するファウルについて、審判は感情的になることなく、競技規則およびプレーコーリング・ガイドラインに則りシンプルに判定する必要がある。テクニカルファウルにおいても、他のパーソナルファウル等と比べて特別に扱うということではなく、リスペクトフォーザゲームの観点も含め、起きた振る舞いに対して判定をする。

6. 報告事項（1）2019年度導入事案

暴言・暴力的行為によるテクニカルファウルとは（ガイドライン【参考資料4】に掲載）

1. コーチのプレーヤーに対する暴言

（1）人格、人権、存在を否定する言葉

〈具体例〉 最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ね、てめえ、この野郎、貴様

（2）自尊心を傷つける、能力を否定する言葉

〈具体例〉 役立たず、下手くそ、アホ、バカ

（3）身体的特徴をけなす言葉

〈具体例〉 チビ、デブ

（4）恐怖感を与える言葉

〈具体例〉 殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？

2. コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）

（1）殴る・蹴るなどを連想させる行為

（2）プレーヤーと近接（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為

（3）「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為

（4）継続的、かつ、度を越えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為

（5）物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

3. 第三者が不快と感じる振る舞い（行動・行為）

（1）不潔な服装、裸足やスリッパでの指導

③コミュニケーションについて

BLG作成資料

- ・今後修正もはいるが、リーグとしてチーム（選手・コーチ）と審判のコミュニケーションについて前向きに取り組んでくれている。
- ・インテグリティの精神をベースにバスケットファミリー全員が取り組む必要がある
- ・不要なテクニカルファウルをなくすためにもコミュニケーション力を高める必要がある
- ・審判は、競技規則、プレーコーリング・ガイドラインに則り、粛々と判定する
- ・審判が傲慢な、高圧的な態度で感情的にテクニカルファウルを利用するべきではない

オンコートにおける「あるべき姿」からバスケットの価値向上へ

日本のバスケットボールの「価値」を高めるための「あるべき姿」を

- 「国際競技力」だけでなく、ファンやパートナー、日本のバスケットを取り巻くすべての方に愛され、ひとを「元気にする」バスケット＝試合を提供していく
- オンコートでのプレー、振る舞い、マインドから、試合としての品質を高め、魅力的なバスケット＝試合を



試合(商品)から生むバスケット界のサイクル

高品質な試合（商品）から生む好循環を

【高い品質の試合（商品）】

- 激しさ・タフ・緊張感・エキサイティング



【人々を元気に】



【感動・興奮】



【バスケットの価値向上】



激しく・エキサイティングで高品質な試合が、ファンや視聴者へ感動と興奮を与え、バスケットの価値向上につながる。そのサイクルを高い次元で回し続けることで、人々を元気にする。注目度が上がっても決して身勝手や傲慢、妥協のある試合(商品)を提供してはならない

現状課題とオンコートでの実態

- 品質の高い試合＝「商品」を協力して作り出すべき「チーム・スタッフ」と「審判」、「TO」の相互のリスペクトが欠如し、時に「対立」の関係が垣間見え、ファンや来場者にとって見苦しいシーンを生んでしまう
- 試合＝「商品」を作り出す上でのプロセスである「コミュニケーション」の定義や手法に共有の概念が無く、その齟齬から、よりフラストレーションを肥大化させてしまう



チーム×審判の関係性、コミュニケーションを共通認識へ

チーム×審判のあるべき関係性・コミュニケーションについての共通認識を

1. 「チーム×審判の関係性を明確に共有」

高品質な試合（商品）を提供するにあたり、主役はチームであり選手。ただし、当然ながら試合を構成するメンバーはチームだけではなく審判の判定によって成り立つ。その関係性を明確化し、共有する

2. 「あるべきコミュニケーションを共有」

高品質な試合（商品）を提供するために、試合中の判定や、判断については常に相互の理解・認識をもって進められることが望まれる。不要なフラストレーションを抱えず、プレーに集中する環境を構築していくための、「コミュニケーション」を定義し、共有する



ファンやスポンサー、地域を背負った「闘いの場」であるオンコート



トップリーグとしての責任と覚悟

- 選手個人としてのパフォーマンスや、チームとしての結果が、各個人だけでなく、ファンやスポンサー、地域にとっての道となるサバイバル。その緊張感や、その中でこそ生まれるプレーに対して人々が感動し、興奮する
- 人々に注目されることによる責任を背負い、対戦相手を含めたステークホルダーへのリスペクトを忘れず、高潔であり続ける姿勢がバスケットの価値を高める



互いに理解することから始まるアプローチ

“オンコートにおけるミス”は試合の中で誰しも起こすもの

- ✓ 生業としてのバスケットボール
- ✓ ファンやスポンサー、地域からの期待・応援
- ✓ パフォーマンスによって「人生」を左右



■ 選手・コーチ

ミスや間違いを無くすべくトレーニング、コーチング、映像分析



■ 審判

- ✓ 「プロ意識」を持って向き合う準備と姿勢
- ✓ 試合までのスカウティングやプレゲームカンファレンス等
- ✓ 一層時間と質をもった取り組み

間違いを無くすべくケース検証、フィジカルトレーニング、研鑽

“選手やコーチだけでなく、
審判も間違えることはある”

双方がこれを理解し、受入れ、その中で建設的なコミュニケーションから高品質な試合=商品の提供へ



オンコート・オフコートにおけるメンバー構成

【オンコート】



ファン・来場者



チーム



チーム



運営・
進行



TOクルー



審判

- ・それぞれがどのような行動規範のうちにいるのか、
- ・それぞれがどのような関係性を持つべきなのか、



インテグリティ軸でも体系付け予定



社会



メディア

【オフコート】

オンコートにおける関係性にフォーカス

【オンコート】



ファン・来場者



チーム



チーム



審判

チーム(コーチ・選手)×審判
の関係性

- ・それぞれがどのような行動規範のうちにいるのか、
- ・それぞれがどのような関係性を持つべきなのか、

インテグリティ軸でも体系付け予定



メディア



社会

【オフコート】

チーム(コーチ・選手)×審判

[互いに協力し、エキサイティングで高品質な試合を作り出す必要性]



- リスペクト** _ 相互の立場を尊重し、リスペクトを忘れない
- 協力・連携** _ 試合(商品)の質を高めるべく、相互の協力・連携を惜しまない
- コミュニケーション** _ 上記を遂行するために必要なコミュニケーションを行う

チーム(コーチ・選手)×審判

[互いに協力し、エキサイティングで高品質な試合を作り出す必要性]



- **リスペクト** _ 相互の立場を尊重し、リスペクトを忘れない
- **協力・連携** _ 試合(商品)の質を高めるべく、相互の協力・連携を惜しまない
- **コミュニケーション** _ 上記を遂行するために必要なコミュニケーションを行う

コミュニケーション…

[判定を下すのは審判員だが、**その基準や理由**を選手やコーチと共有することで、より良い試合を作り上げる]

○ : Question

- さっきの○○選手は先にポジションを占めていたと思うが、どういう判定でしたか？
- さっきのプレーはこう見たが、どうでしたか？
- …



お互いの理解を深めるためのコミュニケーション。
答えを明確にすることで試合の質を上げる。試合中に取るべきコミュニケーション

× : Statement

- さっきはファウルでしょ！全然見えてないでしょ！
- なんで吹かないの？なんで吹けないの？おかしいよ！
- …



試合においては、
「あそこを見て欲しい」
「あの選手のあのプレーはファウルだと思う」
の情報交換も否定するものではない



一方的な感情や思いを預ける（当てる）だけの発言。やり取りを深めても試合の質を好転できない。試合中に取るべきコミュニケーションとは考えない

コミュニケーション…

[判定を下すのは審判員だが、その基準や理由を選手やコーチと共有することで、より良い試合を作り上げる]

キーワード：「Short and Clear」

- ・ コミュニケーションを取りうる時間帯の短さを前提に、要点を「短く簡潔に、明確に」
- ・ 長い時間を要するコミュニケーションはそもそも成立しないことをそれぞれで共有
- ・ また、一方のチームとのコミュニケーションにより他方のチームへの要らぬフラストレーションに繋がる恐れもあり

・競技規則

・ガイドライン

・ルールの理解度

・ワーディングの統一

・短く簡潔で、明確なコミュニケーション

ルールの理解度を習熟させ、使用言語（ワーディング）の統一・共有化を図ることが「短く簡潔で、明確な」コミュニケーションへの第一歩

試合の品質向上へ向けて...

リスペクト

・まずはそれぞれの立場でベストを尽くす、主役である選手・チームを尊重し、一方で判定を行う審判を尊重する、相互にリスペクトするマインドを。

協力・連携

・チームと審判は対立関係ではなく、協力関係で結ばなければならない。高品質な試合を世の中へ提供するためにも、協力関係であることを前提にする

コミュニケーション

・判定に対する意義や異論はゼロには出来ないものの、クエスションのコミュニケーションで相互の理解を深め、解決を図る。ステートメントは試合の質を上げるものにはなり得ない。

試合(商品)の品質向上へ向けたアプローチ



1. 相互のリスペクト
2. 協力・連携のマインドを



3. Questionでコミュニケーションを

クラブとしても管理を。不服、異論が選手やコーチにつのると、来場者にも伝播し、商品価値を下げることに繋がる

6. 報告事項（1）2019年度導入事案

④抗議の取り扱いについて 資料③P25

2018年度都道府県事案報告でお伝えしましたが、近年はSNSにより映像等が直ぐに拡散します。

また、熱心な保護者等がマスコミへの連絡により問題がより大きく複雑になる場合があります。

重大なトラブルが発生した場合は、インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）に則り、また抗議の取り扱いに記載した手順に従って速やかに対応する事が重要です。

7. 継続審議事案（1）レフェリー2021改革

①ライセンス制度2021に向けて

1) CD級eラーニング導入、E級完全更新制

- ・登録料の見直し
- ・県内BCDE級ライセンスの全国統一化

2) フィットネステストのあり方検討

- ・ヨーヨー導入について
- ・シャトルランの取り扱い
- ・年齢別の取り扱い
- ・トップリーグ担当審判FIBA基準導入の取り扱い

3) ルールテストの検討

- ・2018年度から150問ルールテスト問題作成を実施したが、この取り組みについて検証

4) 定年制の検討

- ・現在のS、A級の55歳定年制についての検証

②レフェリースクール開設

JBA主導（座学・実技）によるレフェリースクールを開設し、1年間の指導により上級審判への道（A級合格相当？）を作る。有望な若手審判の育成とともに、プレーヤーのセカンドキャリアにも対応する。

座学 審判およびインストラクター育成に関する指導カリキュラム体系化

実技 インターハイ～社会人選手権までJBA主催全国大会の試合を使って実施

課題 WM（Man Power & Money）

③U18審判員拡大および全国大会での受け入れ体制充実

1）保護者同意書、謝金の取り扱い等、全国統一化

→JBAで取りまとめ全国へ

2）全国ミニ、U15選手権での活用

→若手に全国大会のチャンス

(1) 学連・社会人からの連絡 **資料③P26~29**

(2) 今後の会議予定

第1回審判委員会予定 2019年5月25日（土）

第1回ブロック連携会議 2019年6月～8月

第2回審判委員会・第2回ブロック連携合同会議

2019年10月3日（木）茨城県日立市

2019年度全国審判長会議 2020年2月23日（日）